資 料 D-20-1

平成 26 年 4 月 24 日

特別シンポジウム「応用物理で活躍する女性達－第 2 回フォトニクス編」報告

人材育成委員会　男女共同参画部門
根本　香絵

平成 25 年 3 月にスタートしたシンポジウム･シリーズ｢応用物理分野で活躍する女性達」の第 2 回「フォトニクス編」を第 61 回応用物理学会春季学術講演会時に開催した。女性研究者のさまざまなキャリアパスを、ロールモデルを通して紹介することが目的のひとつで、応物物理学会河田会長あいさつにはじまり、第一部は 5 名の招待講演者、第 2 部は男女共同参画学協会連絡会の 5 年ぶりのアンケート結果の報告に続き、黒田玲子氏による基調講演となった。講演に対する質問も研究、学術上のことから、女性のキャリアや会社の様子まで様々で、活発な議論が行われた。会場でのアンケート結果からは、

- 他のシンポジウムと異なり、女性研究者のキャリアパスを中心に据えたことで、テーマに学術的な幅が出て興味深かった。
- 女性研究者の活躍する姿に元気をもらった。
- 黒田氏の基調講演で元気がでた。

といった、企画の意図が実現出来たことを実感できる意見も多く、シンポジウムを通した男女共同参画活動の重要性を見て取ることができる 。一方で、

- もう少し女性研究者のキャリア上の問題についても､それぞれの招待講演者に語ってもらいたかった。
- 他のセッションやシンポジウムと重なって出席できない。

などの意見もあり、単にプログラムの調整という問題だけでない課題も浮き彫りになった。本シンポジウム・シリーズでは、初回の企画段階から男女共同参画部門のシンポジウム企画として、研究成果発表としての性質と男女共同参画部門企画として性質とのバランスをどう効果的にとるかについては十分議論されてきた。また、他の人材育成委員会の男女共同参画活動との連携的な効果についても議論がなされてきているが、必ずしも参加者と共有されていないことも示唆された。今後は、応用物理学会にふさわしい男女共同参画活動として、また会員のニーズへ応えていくには、活動の見える化を早急に進めていくことが必要である。また、シンポジウムの参加者からも、会員の男女共同参画への関心が高くなってきていることが伺えることから、学会の中にある受動的な関心を、能動的、主体的な関心へと発展的に展開できる環境作りも今後の課題としたい。

以上